

## 4 講師の先生から一言

研修講師： ひらやま 平山 たけし 猛 氏

(株)トライローグ 代表取締役  
福岡女子大学 非常勤講師  
日本ファシリテーション協会災害復興委員会 委員長



本事業は前身となる「かごしまシニア人材育成活用事業」から数えて4年目の取組となりますが、地域の高齢者が主体となって、行政と社協の職員との協働で地域の困りごとを解決するモデルが出来つつあると感じています。

令和4年度事業の対象地域となった、北薩地域、大島地域（徳之島等）、大隅地域（肝属地区）では、いずれの地区・校区においても、住民から行政への一方的な要望や社協への過度な依存ではなく、高齢者が自分たちだから出来ることを考え、地域の中で実際に取り組んでいる姿が見られました。

これらの地域で取組が具体的に前に進んだ要因としては、地域で積極的に活動してきた高齢者の方々の熱意はもちろんですが、行政・社協の職員の地域への働きかけが大きかったと思います。ファシリテーションとは「人々の活動が容易にできるよう支援し、うまくことが運ぶよう舵取りすること」（日本ファシリテーション協会ホームページより）と定義されていますが、本事業の研修を受講された行政・社協職員の方々のファシリテーションへの理解やファシリテーターとしての関わりが奏功したと確信しています。

この4年間の鹿児島県での事業に伴走させて頂いた中で、私が考える行政・社協として地域の高齢者（シニア）人材の活動を支援する際のポイントとしては「高齢者同士の話し合いでのファシリテーション（話し合いの交通整理）」と「地域での取組みを後押しするファシリテーション（やりたい人の後方支援）」の2点が挙げられると思います。

### ① 高齢者同士の話し合いでのファシリテーション（話し合いの交通整理）

行政・社協職員が地域での話し合いにファシリテーターとして関わり、様々な高齢者の意見を上手に引き出し、それらを受止め、整理して、話し合いに参加した方々の納得度・満足度を高めるための交通整理を行う。

### ② 地域での取組みを後押しするファシリテーション（やりたい人の後方支援）

高齢者の主体性尊重しながら、お互いを信頼し協力できる関係性を築き、高齢者が地域での取組を進める際に直面する様々な障壁を、根気強く見守りつつ、時には行政・社協の立場から支援する。

以上の2点は、新たな取組を始める時だけではなく、地域での普段の活動の中に組み込まれていくことが重要だと考えています。今年度、北薩地域、大島地域（徳之島等）、大隅地域（肝属地区）で取組まれたことが、次年度以降も継続され、さらに発展していくことを願っています。

また、今後さらに鹿児島県内の行政・社協の中にファシリテーションのスキルとマインドを持った職員が増え、地域の中にファシリテーションが根付いていくことが、地域で暮らす高齢者の社会参加の促進に繋がっていくと信じています。